

持続可能な社会を ともにつくる一年に

パルシステム東京 理事長

野々山 理恵子



●野々山 理恵子

1959年、長野県に生まれる。好きなパルシステム商品は、人参とポークウインナー。最近のプチハッピーは、女子大生たちのおしゃべり「パルシステムっていいよね」を耳にしたこと。



あけましておめでとうございます

2018年は、17年末の第1回ジャパンSDGsアワードで推進副本部長賞を受賞したこと、報告から始まり、パルシステムが目ざれつながら増えた年でした。これまでみなさまともに行ってきた産直運動や環境保全などすべてのことは、持続可能な社会づくりに貢献することです。関わりのあるすべての方、仲間みなさまに感謝を申し上げます。

食をめぐる不安に対して

一方、昨年は、いわゆる種子法の廃止、農薬使用基準の緩和、遺伝子組換え食品表示の変更、水道「民営化」の決定やTPP11の発効など、食や暮らしへの心配のタネが多い一年でもありました。

そのような状況下でパルシステム東京は、「日本の種子を守る会」に参加、多くの組合

キーワードは「持続可能性」

、さまざまな不安を感じるなか、続けていくことの大切さも痛感します。そのためには現状維持でなく、常に新たな知恵や挑戦による変化も必要です。組合員の活動も、将来にわたって持続できる形を考えるべきときになっています。

協同組合への期待に応える一年に

国連は、SDGsの目標達成で協同組合の役割を明記しています。また、社会経済のしくみに多くの人が行き詰まりも感じてきている今、協同組合への期待を各方面から感じます。

私たちも協同組合の一員として、今年もパルシステム東京らしく、事業にも活動にも力を結集していきたいと考えています。本年もよろしくお願いたします。

2018年度上半期 パルシステム東京の事業と活動

パルシステム東京 専務理事 辻 正一



●パルシステム事業

組合員のたくさんの利用により、上半期受注実績は前年度実績・今年度予算をともに超過することができました。

6月の総代会で確認した「組合員の求める食と暮らしの安全・安心に取り組みます。」の実現として、植樹などの環境保全活動に力を入れるよりも漁協とともに安全・安心な新商品「産直ごま昆布」を開発。「クリームシチュー」などでたんぱく加水分解物を除いたり、カタログの遺伝子組換えの表示をわかりやすく変更し、改善を進めました。

再生可能エネルギーを中心に届ける「パルシステムでんき」の契約にも力を注ぎました。配送担当が、新電力について学習し、組合員にわかりやすく説明する取り組みを重ねた結果、上半期だけで年間目標数を超える成果がありました。



2018年10月より、商品を選びやすくなるよう、遺伝子組換え表示をわかりやすくしました

●福祉事業

パルシステム東京らしい福祉をめざし、保育園「ぱる★キッズ足立」と「デイサービスセンター足立陽だまり」が同居する足立福祉棟が完成。高齢者と子どもの共生ケアをさらに進めます。

今後は、高齢者の住まいも含めた、パルシステム東京らしいケアを実現する福祉事業の検討を、みなさんとともに始めたいと思っています。齢を重ねても安心してらせる環境を考えましょう。

●組合員活動

よりよい社会をつくるための活動を活発に展開しています。西日本豪雨緊急支援募金や「平和カンパ」にも、多くの組合員の協力がありました。

一方で、組合員活動への参加を広げることは、近年の課題です。持続していける組合員活動をもとに考えていきましょう。



八王子センターでの「はちせんカフェ」。子育て世代の組合員が、家族といっしょに楽しみました

2018年度 上半期報告

2018年4月1日～2018年9月30日

総事業高 (すべての事業収入)
368億1,851万円
前年比 104.0%
1人当たり出資金額 3万7,009円

前年比 102.0% 予算比 101.3%

経常剰余金 **1億3,331万円** 組合員数 **49万4,014人**

パルシステム事業総事業高 **362億4,004万円** 福祉事業総事業収入 **5億5,241万円**
予算比 101.3% 予算比 97.6%

インフォメーション

10/25 第20回定例理事会開催

(1) 2018年第1回総代会議招集及び「2018年度上半期のまとめ」決定の件

2018年の総代選出を受けて、2018年度上半期の事業活動報告及

び下半期の取り組みの共有をおもな目的として、第1回総代会議の開催と論議資料となる「2018年度上半期のまとめ」を議決しました。

11/11 「しあわせの経済」フォーラム2018に理事長が登場

「企業のためのグローバル化」に對抗する「ローカリゼーション」の実践とモデルを発信する、「しあわせの経済」フォーラム2018in東京(パルシステム東京 特別協賛)が開催されました。パネル・ディスカッション「TPPの本当の意味」では、野々山理事長が消費者の立場から食のグローバル化の問題点を話しました。

「遺伝子組換え商品の輸入妨害になる」として、政府は遺伝子組換え不使用表示を実質的にできなくしようと



山田正彦農林水産大臣らとともに発言する野々山理事長(写真・左奥 明治学院大学にて)

11/13～20 第1回 総代会議で活発な意見交換

組合員の代表「総代」が、パルシステム東京の今後の課題を考える「第1回総代会議」が、9会場で開催されました。6月に開催される「総代会」の議案書づくりの第一歩です。

介護の現状説明などもあり、考えを深めていくきっかけになりました。

2月には第2回総代会議を開催し、さらに論議を重ねます。

今回は、エコチャレンジ基準の見直し、新しい組合員の活動の場「サークル」や福祉事業の展開などについて、活発な意見交換がありました。



在宅介護の現状を話す福祉事業活動部スーパーバイザーの金衛陽子職員(東京都生協連会館にて)

11月29日には総代セミナー拡大版「今後のパルシステム東京の福祉事業のあり方」も開かれました。グループホーム見学の報告やより詳しい在宅

パルシステム東京 10月 データ

総事業高 **66億3,767万円**
組合員数: 49万6,930人 予算比98.6% 予算未達成

リユース・リサイクル回収率
*回収率は2018年4～10月の回収量/供給率

はじめませんか エコライフ!
*詳しくはパルシステム東京ホームページから

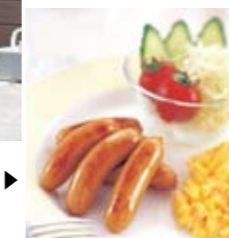
- 商品カタログ 78.0%↓
- 紙バック 74.0%↓
- 資源プラスチック類 35.9%↓
- 卵パック 82.2%↓
- ABパック ヨーグルトパック 43.0%↑
- リユースびん 63.1%↓
- お料理セットトレー 62.9%↓
- 米袋 40.9%→

食と福祉での取り組み、さらに進歩



人気商品の「ポークウインナー」などもたんぱく加水分解物不使用にリニューアル。組合員の声を受けて、よりこだわりに磨きをかけた。

「昨春オープンした「ぱる★キッズ足立」では、食育の一環として野菜づくりにも取り組んでいる。



パルシステムは、SDGs(持続可能な開発目標)に貢献していると国が評価



2015年の国連サミットで採択されたSDGsは、貧困や飢餓の問題をはじめ、エネルギー、気候変動など、今、世界が直面している17の課題を、すべての人が協力して解決しようという目標。2017年末には、目標達成に貢献している団体として、パルシステムが、第1回「ジャパンSDGsアワード」を受賞した。